

授業改善研究が実施されました！



本年度最後の授業改善研修会が、先日の1月10日(金)に実施されました。本校の授業改善は、帝京大学の高等教育開発センターと連携し、本校の教員の授業改善を図るため、継続的な支援を受け、研究をおおして授業改善をおこなっています。

昨年は平成30年11月27日(火)の5・6校時、多目的室において黄金井教諭の「コミュニケーション英語Ⅰ」(1年1組)の授業と、講評並びに講演を帝京大学土持ゲーリー法一教授、宮原俊之准教授に務めていただきました。

本年度は、国語科の宮崎教諭と地歴公民科の藤原教諭の授業に対して年間をおおして宮原俊之准教授より、授業改善への助言、指導等の支援をいただきました。

当日は4校時、藤原教諭の1年4組「現代社会」の授業を観察していただき、6校時に宮崎教諭の2年5組「現代文B」を観察していただきました。そして、授業後に2人の研究協議を行い、放課後の15時30分から授業改善に向けての講演をいただきました。

藤原教諭は単元「国民所得」で研究授業を、宮崎教諭は夏目漱石の『こころ』で研究授業を行いました。2人共、この1年間で大きく改善されたと思われるのは、生徒に発問し、生徒からの答えを聞いて、何故、その答えになったかを尋ねたり、さらなる別解を求めたりするようになり、授業を深化させるようになっていました。これを機に2人には今後も、授業改善に励んでもらいたいと思います。

宮原准教授には『主体的な学びの実現を目指して』という表題で講演をいただきました。講演ではインストラクショナルデザイン(教授設計・教育設計)を行っていくための視点や、教材のチェックなどが示され、さらにメリルのID理論や、ガニエの9教授事象など、教授していくのに使える理論も示してもらいました。

次年度以降も帝京大学高等教育開発センターと連携を図り、更なる授業改善を行い、教員の授業力向上を図っていきます。

令和元年 12 月 24 日、終業式の校長の講話について 『子を迎える』

今日が学校として本年最後の登校日になりました。12 月は「師走」とよばれます。「師走」の由来には諸説ありますが、昔の人は、お寺のお坊さんに、家に来ていただいてお経を読んでもらう風習があり、その為、お坊さんが檀家を何件も回らなくてははいけないので、お坊さん＝師が忙しいので「師走」になったというのが有力な説です。また、一説として学校の先生が 12 月に忙しいからというものもあります。

師走になると新年を迎えるために、各家庭では大掃除をしたいと思います。もう既に 12 月 13 日に大掃除を行った家庭があるかもしれません。というのは大掃除の起源は、旧暦の 12 月 13 日に江戸城で煤払いを行い、正月事始めとしていたからです。それが庶民にも広まり、年末に大掃除するようになったといわれます。

いまから 9 年前の 2010 年、歌手の植村花菜さんが歌ってヒットした曲に『トイレの神様』があります。この歌は、植村さんが実際におばあちゃんと暮らしていた時の実体験から作られた曲です。歌詞で印象的なのが次の一節です。

「トイレには それはそれはキレイな 女神様がいるんやで
だから毎日 キレイにしたら 女神様みたいに
べっぴんさんになれるんやで」(校長 アカペラで歌う)

ということは、トイレには神様がいるということになります。日本には古くから八百万の神といわれるように、いろいろなものに神様が宿っていると考えています。花や木、森、山、川などから、家のなかにある台所、風呂場、便所などにも神様がいると信じられてきました。

台所には火の神様がいると信じられてきています。いまでこそガスレンジや電子レンジが使われていますが、昔は各家庭に竈があり、正月に火の神様、かまどの神様にも休んでいただくために釜戸を閉めました。その為、前もって料理したものがお節料理なのです。また、正月に刃物を使うことを嫌い、料理をしない地域もあります。刃物を使うことによって、来ている神様とのご縁を切ってしまうから嫌うようです。

同じように元日に「お風呂には入らない」「洗濯をしない」という行為も、せっかく神様に来ていただいたのに、神様の福を流してしまうから嫌うようです。

生徒の皆さん、師走の大晦日に今年一年間を振り返って、特に失敗したことを教訓化し、元日に目標を立て、その年にやらなくてははいけないことを考えてください。

すると元旦に、神様の使いのネズミが玄関前にいるかもしれませんよ！